

文化高知

'97年11月 NO.80



「コペンハーゲンより」 藤島晃一

土佐人気質は 変わるだろうか

片岡徳雄

今年、四月。五十年ぶりのUターンで、住み慣れた広島から高知に移った。新居は幼少時に育った高知市上町の一角に求めたが、あたりに昔の面影は僅かしか残ってなく、大方はビルと駐車場の目立つ町並みになっている。ただ、早朝よく散歩する城山、天神さん、山内神社などは、さすがに昔の想い出のままである。

八月のとある朝。その山内神社から引き返し、鏡川の河川敷を西にぶらぶら歩いていると、後ろから自転車の気配がする。道を開けると、三十四、五歳の男が勢よく私の側を走り抜けながら、言い放った。

「早や、あればア来ちゆうとは、知らざった!」
「なにが、ですか?」

「花火の座席よ!踏みたくつちやったき!!」

(いかに高知だなア)

走り去る男の後ろ姿を見つめながら、私はつくづくそう思ったことがある。

延び延びになった花火大会が今日はあるということで、その観覧特等席になるであろう山内神社南側あたりの河川敷には、既にビニール・シートがいっぱい敷きつめられていた。その光景を目にしたばかりの私には、この男の放言がとっさに分かった。

(予約シートを敷きに行ったのに、もう入り込む余地とてない。腹いせに踏みこじって来た。ざまアみる)

そんな悪さをするのも土佐人だが、おまけに、それを通りすがりの私に

告げるところが、いかにもアツケラカンとした土佐人気質である。

その少し前のこと。「よさこい祭り」で踊る、うちの学生に付き添っていた時である。演舞場から演舞場に移るバスに、はっぴを羽織った私は短パンで乗り込み、踊り子たちと他愛もない話に興じながら、脚組みした脚をピコピコ動かしていた。とつぜん一人の学生が、

「アラッ、先生の脚、毛がない!」
「ホント!」「ない!」

私も負けずに言っちゃった。「シン、パイ、ゴ、ム、ヨウ。あるべきところにはちゃんとある!」
言った方(ほう)も言った方、答えた方も答えた方。どちらも共に土佐である。こんなあけすけな感性的応答は、祭りの開放気分があったとはいえ、他県人、例えば瀬戸内や日本海沿いには、ないと行ってよい。少なくとも、私の永い教師生活からいって、である。

土佐人気質は、土佐が遠隔断絶の地勢の故もあってか、良きにつけ悪しきにつけ、他県のそれと比べ、際立ったものがある。例えば、「明るさ」「親しみやすさ」「率直」「直感力」などはひとときわ目立つ長所だが、「浅慮」「三日坊主」「無礼」「秩序感喪失」などの欠点は、なにを隠そう、私自身の中にも巣くっている弱点である。

土佐女性の別称「八金」を、どれだけリファイン(洗練)したものに育てることが出来るだろうか——そんな思いをめぐらしながら、今朝も城山を散策したことである。

(かたおかとくお・土佐女子短期大学長)

言葉との付き合い

森下一仁

東京で暮らし始めて、もうすぐ二十年。

夫婦とも高知生まれの高知育だし、仕事は家の中で出来る。いきおい、東京にいても使う言葉は高知弁が中心である。

小さい頃から使い慣れた言葉が通じることはありがたい。たとえは、めったにないことだが、仕事がいくつか立て込んでまいっているような時はどうしても「タレモツウチュウ」と、苦況を訴えたくなる。

これが「はかどらなくて弱った」では、なんだか他人ごとのような気がする。「タレモツウチュウ」は言い得て妙な表現。高知弁の中でも秀逸なものだと思う。

困った時は「メッタ」「エズイ」「ドモナラン」と嘆く。標準語で嘆くより、ずっと心情が伝わる。立ち

直る力も湧いてこようというものだ。

口先だけで格好をつけようとしている人がいると「ヨーダイバツカリコイテカラニ」と冷やかしたい。「ザットシタ」人間であることを言い当てた気がして気持ちが良い。

こうした微妙なニュアンスは当の言葉を知らない人には伝えにくい。抽象的な意味だけでなく、体の細胞のひとつひとつにまで響く感覚がある。ふるさとの言葉は「コオベッタ」言葉では得られない、全身的な表現の喜びをもっている。

しかし、小説や批評など、ふだんの仕事で使う言葉はちがう。日本語の標準となるような表現を心がける必要がある。高知弁なら一発で済むのにと、別の言葉を組み合わせて表現しなければならぬ

となる。

仕方ないことだし、逆に工夫のしがいがあったおもしろいともいえる。明治以降、日本の作家は皆こうして表現の幅を広げてきたのである。近代の書き言葉は誰にとっても「コオベッタ」言葉だったのだ。これを生き生きとした微細な表現まで可能なものにするためには、多くの人間の工夫の積み重ねがあった。私たちはその恩恵に与っている。

二十世紀もそろそろ終わりが近づき、全地球的なコミュニケーションの時代が始まろうとしている。私も、たまにだが、インターネットを通じて外国のSF関係者とやりとりをす

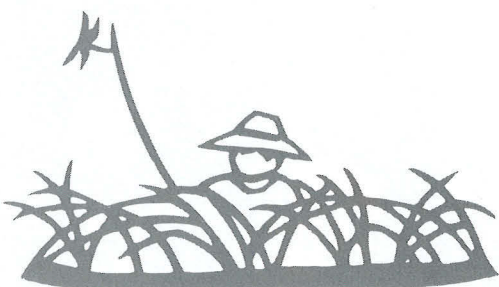
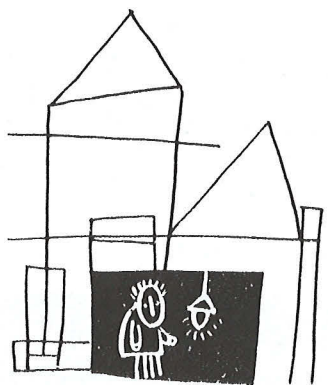
ることがある。使う言葉は英語である。下手な英語なので気持ちを伝えるどころか、言いたい用件を表現するのにも苦労する。間違っって伝わっているのではないかと、恐る恐る発信しているのが現状だ。

受け取る場合も同様。どういう表現がどういうニュアンスを持っているかなどということは見当もつかない。おおよその意味がわかったつもりになっているだけだ。

こういった事態が拡大してゆくかと思うと空恐ろしい気がする。しかし、単純な英語からでも、なんとなく相手の人柄が伝わってくるような気がするのも事実だ。微妙なことをうまく表わす言葉はなくても、それらしい気持ちを籠めることは可能なのだろう。たぶん、相手にとっても同じだろうと思うしかない。誠意を籠めた文章からは誠意が立ち昇ると信じてメールを書く。馴れ親しんだ言葉を使うのが全身的な表現だとすれば、こちらは頭の芯だけを使って五体は金縛りにあったような表現である。

言葉は意思を伝える道具だが、付き合い方はいくつものレベルがある。それぞれのレベルで、豊かで楽しい使い方をしたいと思っている。

(もりしたかつひと・SF作家・東京在住)



自然史学の復興を願って

[上]

町田吉彦

最も尊敬する科学者は誰かと問われれば、躊躇なく「リプケ・ホルトハウス教授」と私は答える。私はここの十八年ほど魚類分類学という微くさい名称の学問と標本にこだわっているが、教授は魚類の分類学者ではない。彼は、世界の甲殻類の分類学者が「エンペラー」と呼ぶ人である。私が高知に着任して間もなく、ホヤの発生学で有名な中内光昭前高知大学長の案内で教授が高知大学を訪れ、シーボルトと日本の博物学について講義をした。当時、私は彼がとんでもないナチュラリストであることを知らなかった。

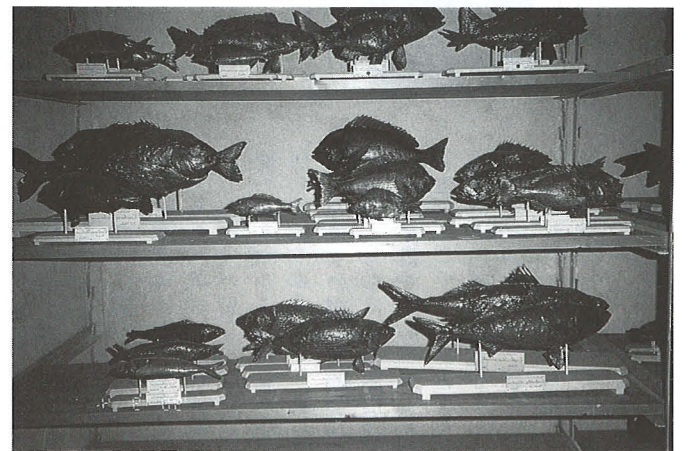
一九九〇年に知人の山口隆男さんから、シーボルトの標本を見に行きませんかと誘いがかった。彼は教授が日本に滞在した時に披露した話の中で、シーボルトが収集した日本産の動物の標本でまだ世に出ていない標本があることを知った。シーボルトに関する著述はこれまでに膨大な量があるが、未公開の標本の存在は意外であり、蟹が専門の山口さんはこれ以降シーボルトと日本の博物学史の研究に取り憑かれた。シーボルトとその助手役のビュルゲルが日本の動植物を採集し、母国に送ったのは一八三〇年から四〇年代である。シーボルトは医者である。しかし、シーボルト標本に基づき、オランダ

の動物学会の重鎮であったテンミンクとシュレーゲルが幾多の動物を新種として世界に報告した。新種の記載は特定の標本を基にして行われる。これらの標本は模式標本とよばれ、国際動物命名規約には「人類共有の学問上の財産として尊重されねばならない」と明記されている。動物の分類学に手を染めると、誰もが真っ先にアメリカの首都ワシントンにある Smithsonian 研究所を訪問するのは、この自然史博物館が最も多くの模式標本を所有しているためである。模式標本は研究施設で永久に保管されねばならない。

一八八〇年代から一九二〇年代にかけて、アメリカの魚類学者が多く日本産魚類を新種として発表した。それらの模式標本はサンフランシスコ、ニューヨーク、ワシントンDCなどの大学や博物館に保管されている。いわゆるシーボルト標本となる。これらより古い。しかし、不思議なことに、これまでシーボルト標本を見た日本人は元日本魚類学会会長の故阿部宗明博士しかいなかった。

それもフグの仲間のほんの一部ではない。

オランダ国立自然史博物館は人口十万人ちよつとの大学の街ライデンにある。落ちつき払ったこの街には、シーボルトにちなんだ「出島通り」があり、クリークでは白鳥や大鷗などの野生の水鳥から鷺や家鴨まであらゆる水鳥が遊んでいる。一五七五年に創設されたライデン大学はオランダ最古の国立大学で、医学と語学の研究拠点として名高い。欧州で



オランダ国立自然史博物館の魚類剥製標本の一部。いわゆるシーボルト標本が採集した種の模式標本も含まれているが、特別扱いされているわけではない。

唯一日本語学科を持ち、日本風庭園もある。

ホルトハウス教授はライデン大学の教官ではなく、オランダ国立自然史博物館の職員である。ライデン大学から教授の称号が授与されている博物館の研究者はほんの数名しかない。しかし、彼等の間でも、皆が「プロフェッサー」と呼ぶのはホルトハウス教授だけである。教授とは

いえ、博物館の職員であるホルトハウス教授には講義の義務がない。何より、教授は会議と講義が大嫌いである。「私はこれまで三度だけ講義をした。その一つが高知大学での講義だから、高知のことは良く覚えている」と語ってくれた。この博物館は他と異なり、市民には年に一日しか開放しない。それも一階の一部だけである。諸外国の著

名な博物館の場合、ほとんどは研究部門が地下にあり、地上部は展示部門として市民に開放されている。間もなく展示部門の開設が予定されているが、オランダ国立自然史博物館は研究博物館として希有の存在である。研究こそ博物館の命という教授は、展示部門の開設に徹底的に反対していた。

実は非常に不安だった。オランダ語のEはEと発音するのだと丁寧に教えてくれた。建物や高速道路にDの表示があれば、アウト、すなわちそこは出口である。オランダ語のhuisはハウス、英語のhouseなのである。この会話で急にリラックスできたのは言うまでもない。教授は自転車通勤である。彼の黒い自転車は大きくて、やたらに古い。たった今博物館の倉庫から出してきただと言われても何の疑問もない。ブレーキはあるのだが、主な制動装置は教授の長い足である。いつも分厚い古いコートを羽織り、ぎつちらぎつちらやって来る。出勤は誰よりも早く、帰宅は誰よりも遅い。研究費が乏しい山口さんと私は休日も仕事をする必要があった。どんな時でも約束どおり教授が必ず来ており、重い博物館の扉を笑顔で開けてくれた。

アメリカやイギリスの同業者の場合には、どんなに偉くて年配の研究者でもニックネームで呼びかけるのが当たり前である。しかし、ホルトハウス教授の場合は「プロフェッサー」以外に考えられない。彼ほど教養に満ちあふれ、質素そのものの紳士を私は知らない。

（まちだよしひこ・高知
大学理学部教授）



ライデン市の町並み



オランダ国立自然史博物館正面。左右の建物は一般の民家。

新しい蟹の玩具を入手すると嬉しくて仕方がない。ライデンで知った彼の偉大さに、私は恐れをなしてしまっていたが、教授は実に気さくな方だった。「そうか、君の名前の意味は町の田圃か。私の名前の意味は古い家だよ」と緊張している私に話しかけてくれた。オランダ語の発音は難しい。教授の名前 Holhuisをどう発音するのか、

漫画は文化か

依光桃子



最近では、行きつけの定食屋に行
ってビッグコミックオリジナルに毎
号目を通す程度の墮落・停滞した漫
画読みになっている私だが、かつて
は市内の貸本屋を渡り歩き、漫画読
みの暗黒街ではちよいと知られた顔
役だったのである。小説はどれだけ
感動しても、そうしょっちゅう読み
返しはしないが、子供の頃読んで感
動した漫画のいくつかは、百回は繰
り返し読んでいます。

畳にねそべって、二十年前の、
日に焼けて茶色くなった講談社漫画
文庫を百一回目に読みながら、ふと
思い至った。こうやって色あせぬ感
動を与え続けてくれる漫画だが、そ
の作者には、二十年前に三百五十円
で買ったときの、その印税しかいっ
てない。その漫画家はいまは全く作
品を発表していないから、きつと生
活は苦しいはずだ。何とも申し訳な
い。それにしても、なんと漫画は安
上がりな芸術であることだ（それと
も、安上がりなのは私のほうか）。

少し前の世代がいろんな知識を娯
楽映画から吸収していたように、
子供時代を七十年代以降に過ごした
世代は、漫画を通じて知ったことが、
素養となっている。とはいえ、その
頃の漫画家たちは、手法も内容も映
画に負うところが非常に多かったの

一般の目に触れる機会を供する事も、
公共機関でこそできる役割である。
フィルムセンターで映画が保存され
るように、漫画もまた体系的な保存
の手だてが講じられるようになれば
いいと思う。

「漫画は文化か？」と聞かれたら、
もちろん、「そうだ！」と答えたい。
歌謡曲や娯楽映画が文化であるのと
同じように。

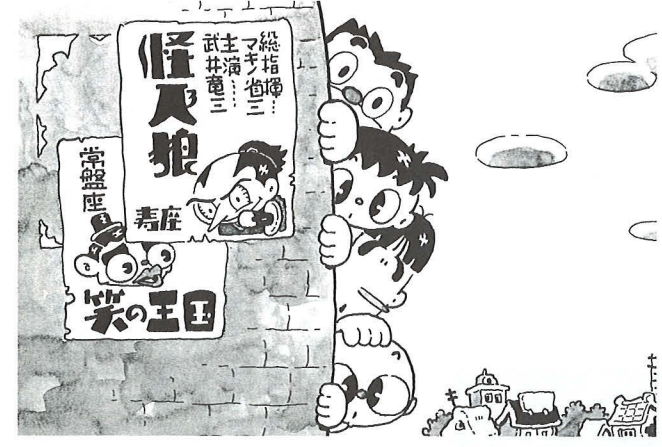
(よりみつもこ・地方公務員)

はぐくまれていたように思う。この
場合の基礎知識とは、たとえば上海
租界であり、忠臣蔵であり、百地三
太夫であり、明治天皇と日露大戦争
である。戦前までさかのぼることは
ない、昭和三十年頃の歌謡曲を聞い
てさえ、情けないことに私には意味
不明の言葉がたくさん出てくる（も
ちろん、一時の流行語は含まない）。
その前の数十年間は誰でもが基礎的
に持っていた知識である。知識の総
量の減少ではなく、体系の細分化に
よる変化であるから、良否でとらえ
ることはできないが、世代を縦断す
る共通語は明らかに減っている。そ
れは発展の多様化と言うよりは、全
く異なる概念を抱きながら、同じも
のを見、同じ言葉でしゃべっている
ため、彼我の違いに気づくことすら
ない、と言う図に近いようだ。

このごろ、漫画による「街おこし」
がはやっている。香北町の「アンパ
ンマンミュージアム」が大変な活況
を呈していることはよく知られてい
るし、「漫画甲子園」も定着した催
しとなった。宝塚市の手塚治虫漫画
館は言うまでもなく、水木しげるの
出身地・境港でも、鬼太郎のモニユ
メントが観光の目玉となっている。
しかし、このところの漫画の取り
上げられようには、正統派漫画読み

には少しばかり違和感もある。別に
漫画が反体制的である必要はないが、
隠れてこそこそ読んでこそその醍醐味
も、漫画の魅力を構成する不可分の
要素ではあった。ちようど、喫煙者
が肺病になる恐怖と嫌煙権者の冷た
い視線のなかでいっそうたばこに執
着するように、漫画ばかり読んでい
ると馬鹿になるとか、もっと勉強し
ろとか怒られてこそ、よりいっそう
漫画を読む楽しみが増したような気
がする。テストの前夜に、焦燥に苛
まれながら読んだ漫画の面白
さは格別であった。

人集めや、行政のソフトな
ムードを演出するための道具
としてでなく、行政が漫画に
関与することが可能だろうか。
多様な広がりを持つ漫画とい
うメディアの可能性を探るた
めの「援助」なら、行政がお
こなって意味があるろう。また、
漫画の収集と保存も公的な手
段がなければ困難なことだ。
たとえば、貸本漫画はどうだ
らう。昔は原画のコマを切り
取って読者への景品としてい
たくらいだから、多くの原稿
が失われている。専門の古書
店で高額に取り引きされている、



第14回市民フロア企画展

小笠原まき展

1997/10/30(木)~11/9(日)
10:00A.M.~6:00P.M.
会期中無休

場所・市民フロア
(はりまや橋・デンテツターミナルビル5階)

主催・(財)高知市文化振興事業団

で、私たち漫画世代は、間接的に映
画の影響をも受けていることになる。
最近、黒澤明の映画をまとめてみ
る機会があつて、娯楽性、ストーリ
ーのおもしろさに驚嘆するとともに、
資質においてかの漫画界の巨人に酷
似しているように思われたので、思
わず「黒澤明は映画界の手塚治虫
だ！」と叫んだのだが、映画世代に
言わせると「手塚治虫は漫画界の黒
澤明だ！」ということになる。白土
三平の忍者ものも、市川雷蔵の「忍
びの者」とあんまり似ているので
(ストーリーも、演出も)、白土のこ
とを、忍者ものというジャンルに屹
立する孤峰と思っていた私は少しが
っかりした。佐藤まさあきやさいと
うたかおのハードボイルドの空気が
日活の宍戸錠や小林旭のシリーズも
の共通することも明らかである。
漫画世代がオリジナルと思っていた
ものが、実は映画においてすでに語
られていた、いや映画そのものであ
ったことにはしばしば驚かされる。
漫画は世につれ、世は漫画につれ
であるから、相互乗り入れの部分は
あつたはずだし、映画との酷似によ
つて漫画の価値が下がるわけではな
いけれど。

かつての日本人の基礎知識は、か
なりの部分を歌謡曲と映画によつて

企画展 「いざなぎ流の宇宙」

を前にして

梅野光興

高知での生活は、大学時代を合わせるとう十二年になる。大学の時は民俗地理の学生として、現在は歴史館の職員として土佐の民俗にふれ、古い習俗や心性が残っていることに驚くことが多かった。これは高知が田舎だからだと卑下するには及ばない。おかげでほかの日本各地で失われてしまった多くのものが土佐には残っているのだ。土佐によく調査に来ている大学の教官は「NHKで『ふるさとの伝承』という番組をやっているけど、高知県だけでも何本でも作れるね」と笑いながら言っていた。

最近、開発が遅れたために土佐に残された自然については関心が集まっている。そして自然保護の方は具体的な動きが盛んなようである。それはとても良いことなのだが、残念なのは、その自然の中で生活してきた人間への関心はまだまだ低いことである。そこには自然と同じくらい、豊かな世界が広がっているのだが、それがあまり関心も深められずに、急速に失われていく。惜しいなあと思ってしまう。

十一月十四日から歴史館で展示を行なう「いざなぎ流」も、そのような土佐の民俗文化のひとつである。いざなぎ流は、高知県物部村に伝えられる民間の祈禱信仰である。かつては、いざなぎ流も大豊町や香北町、安芸市にも分布し、よく似た信仰は高知県各地にあつたらしいが、現在では物部村にしろうじて伝えられているという状況である。村に二、三十人もいたといういざなぎ流の太夫も、今では五、六人になってしま

含まれている。だが、太夫は、この祭文を集まった人々に聞かせるわけではない。一定のリズムをもった早

口で祭文を読む声は、ほとんど聞きとれない。でもそれで良いのである。なぜなら、この祭文は神様に対して

った。若い弟子が入ったり、子供が後を継いだりと明るい話が無いことは無いが、総体的には衰退していると言わざるをえない。

その理由として、いざなぎ流が大変複雑なものであるということがあげられよう。はじめて物部に調査に入り、太夫の小松豊孝さんに話を聞いた日の晩、私たちは、その内容の複雑さ、多さに頭がふらふらし、酔っぱらったような気分になってしまったのである。いざなぎ流をひと通り理解するのに十年はかかると言われ、今年がちょうど十年目であることに「ああやっぱり」と思っているのだが、それほどいざなぎ流の内容は複雑で奥が深い。しかも昔の人はその全てを頭で暗記したのである。これを習得するためには、現代のように気ぜわしく忙しい時代ではなかなか困難であろう。私たち調査者が苦労するのもその点である。

しかしながら、その複雑な世界に分けいついていくと、驚きや発見にめくるめく興奮を覚えるのも確かである。いざなぎ流の大きな特徴は、その中に芸能や文学の

読み上げているのであって、人間に聞かせているのではないからだ。物語といえ、小説だろうと、映画だろうと、テレビだろうと人間が読んだり見たりするものに決まっている。だが、神に聞かせるための物語というものがある。それは、文学というものもが実は神々との交流の中で発達してきたのではないかと予感させる。また、舞にしてもそうである。いざなぎ流の舞は、県内のほかの神楽に共通するものも多いが、その舞はただ見た目が面白いように舞っているのではない。例えばいんかんの舞は手をさまざまに形（印かん）に組み合わせさせて舞うものだが、その印は単なるポーズではなく、それを組み合わせることで、祭りの場に近づいてくる悪いものを、はじき飛ばしてしまいう力があるとされている。神楽舞いは娯楽というより、信仰に根ざした意味があつたのではないかと考えると、ほかの土佐の神楽についても、その意味するところが浮かび上がってくる。

滅多に見ることはなく、また私も実際に見たことはないが、いざなぎ流には十二の仮面を使った即興劇が伝えられている。これなどは能や狂言の原型である猿楽の素朴な姿ではないかと私たちは考えている。つまり、いざなぎ流の中には、芸

発生する萌芽もっているというところだろう。いざなぎ流には二十種類を超える祭文が伝えられている。祭文とは、「山の神祭文」「水神祭文」などと題にあるように、それぞれの神の由来を語ったお話、物語である。堅苦しいものではなく、竜宮の乙姫がおこぜの次郎にだまされて、みにくい山の神の妻になったり、長者が雨をもらうため、かわいい娘を蛇のいけにえにしたり、昔話に似た想像力をかきたてるストーリーが数多く



大黒柱の前で、いざなぎ流七つの祭文をよむ太夫。本神楽がにぎやかに行われている横で静かに祈りは続く。(物部村別役津々呂 '96.1.4)

能文化の原型のようなものがパックされて保存されているのである。いざなぎ流を見ることが、私たちは芸能の意味とそこに込められた精神文化を知ることができるのである。これは、ひとえに専門の太夫がこの信仰を支えてきたからで、完全に娯楽となってしまうた民俗芸能からはたどりにくいことである。

いざなぎ流は、おそらく中世後期頃に日本に流行した信仰形態に源流をもつと思われる。長い時間伝承されるうちに変化し、付け加わった部分も多いだろうが、ともかく、物部村にはそのような古い文化が生き残ってきたのである。それが、今世紀の社会的な変化によって消滅しようとしている。一体そのことで何が失われようとしているのか、私たちはそのことを知りたいと思うのである。

（うめのみつおき・県立歴史民俗資料館学芸員）

「企画展「いざなぎ流の宇宙」は、十一月十四日から翌年の一月二十五日まで、高知県立歴史民俗資料館にて。いざなぎ流の公演を十一月二十九日、高木啓夫氏の講演会および小松和彦、山本ひろ子、斎藤英喜の三氏によるシンポジウムを十一月三十日に開催します」



天台流の太夫たちによる仮面劇。炭焼き五郎の嫁取りが面白おかしく演ぜられる。(土佐山田町前行 '77.12.27)

動物たちの子育て ②



中西安男

《ジャガーの子育て》

一九八八年四月六日。ジャガーの雌「リリー」の寝室にそっと近づき、小さな覗き穴から薄暗い室内の様子を窺う。彼女はたつぷりと敷きつめられたワラの上で、気持ち良さそうに横たわっていた。何も変わった様子はなく、いつものように、次の瞬間、緊張した表情を見せると同時に全身に力が込められた。その状況から、いよいよ彼女の出産が始まることを直感的に感じた。しかし、しばらく観察していたがそれ以上の進展が見られないため、もう少し時間がかかると思い、とりあえず事務所に引き上げた。

三十分後に再び確認のために「ドキドキ」する胸を押さえ、そっと室内を覗く。すると、今まさに新たな命が誕生しようという時だった。すでに羊膜に包まれた赤ちゃんの一部が股間から見えた。と思った途端、羊膜に包まれた赤ちゃんの全身がトコロテンのようにスルスルと出てきた。それと同時に「リリー」は顔を起こし、顔を赤ちゃんと近づけた。「リリー」が態勢を変えたので、私には「リリー」がなにをしているのかわからないが、彼女は赤ちゃんの羊膜をなめ取り、食べているに違いないと思った。

その行為は、赤ちゃんと母親の最

初のスキンシップで

ある。優しい母親の舌で、濡れた赤ちゃんは全身を丁寧になめてもらい体を乾かしてもらっているのだ。その行為を確認できたことで、「リリー」にすべてを任せておけば間違いはないと判断し、「リリー」を刺激しないようにそっとその場を離れた。約1時間後に再度室内を覗くと、横になった「リリー」のそばに二頭の赤ちゃんが見える。「リリー」は私が覗いていることを少し気にして頭をもたげたが、すぐによく知っている私であることに気づき、安心してくつろいだ。

赤ちゃんを見ると、すでに初乳をたらふく飲んだのだろう、スヤスヤと眠っている。赤ちゃんは体重が九〇グラムしかなく、七〇キログラムほどもある母親からすればひ弱く、目も見えず、耳も聞こえない、歩くこともできない未熟な赤ちゃんである。しかし、母親譲りの美しいヒョ



出産後すぐ



生後約2カ月

た未熟な新生児を育てるのだから母親は相当に神経質になっている。安全とプライバシーを保障してやらないと、とんでもないことが起こる場合がある。安心して新生児を隠しておく巣がないために、新生児を隠したいという衝動から母親が精神的に不安定となり、新生児を食べるといふとんでもない行動に出る。強いと思

思われる猛獣のジャガーでも、子育ての成功不成功は母親のデリケートな精神状態をいかに安定させるかに左右される。そのため、細心の注意を払い、必要以上に寝室に近づき母親を刺激しないようにするのである。さて、「リリー」の子育てであるが、私達のそうした配慮の下、順調に進んでいた。小さな赤ちゃんの成長は目覚ましく、一日に約一〇〇グラム

ずつ体重が増加していくのである。最初は視力もなく、歩くこともできない状態

だったが、生後二カ月になると体重も五キログラムにもなり、走ることもできるまでに成長する。また、この頃になると母乳だけだったのが、母親の食べる生肉も少しだけ食べるようになり、兄弟で激しいレスリングのような遊びも見られるようになる。ここまで成長すると、いよいよお客さんへのお披露目である。初めて外の運動場への扉を開

けると、子ども達は初めて見る外の世界に喜び走り回るのだが、「リリー」はその子ども達をくわえては安全な室内に連れ込む。しかし、そのつど子ども達は脱走し外へと走り出て行く。そんなことを何度となく繰り返すと、さしもの「リリー」もあきらめ、子ども達が外で遊ぶのを許すようになる。これで、ようやく微笑ましい母子の姿が来園者に披露されるのである。

ところで、このジャガーの子育てには父親は登場しない。本来が単独生活者であるため、子育ては母親のみの仕事として進行するのである。父親は、我々から見たら父親であるのだが、彼らにとってはただのオスであり、人間で言う父親の役割はもっていないのである。だから「リリー」の子育ても、オス親とは別居状態で行われるのだ。哺乳類の世界を見渡すと、こうした母親のみで子育てをする動物は意外と多くいる。私も子供が一人いるが、同じ哺乳類とはいえず実にうらやましいと思うことがある。ん、こんなことを書いていたら、子供が「オシッコ」と叫んでいるのではないか。こうしてはられない、「ちょ、ちよつとまでー」。

(なかにしやすお・わんぱーく) (こうち・アニマルランド)

(財)高知市文化振興事業団 主催事業のお知らせ

「響きわたれ蒼穹の土佐へ」

短歌絶叫・福島泰樹1stコンサートin高知

平成9年11月21日(金) 午後7時開演
高知県立美術館ホール
入場料 前売 当日とも二千円(全自由席)
*短歌を音楽にのせて謳う新ジャンルを開拓した歌人福島泰樹氏の高知初公演。
●電話でのチケット予約も受付中。

伊藤キム十輝く未来・ダンス公演

平成9年11月10日(月)午後7時開演
高知県立県民文化ホール・グリーン
入場料 前売 三千元
当日 三千五百円
(全自由席)
*ダンスの世界的登壇門・パニョレ国際振付賞を受賞した気鋭のダンサー、初の高知公演。
●電話でのチケット予約も受付中。



岡本弥太余聞

(一)

堀内 豊

あらざらんこの世のほかの思い出に
今ひとたびの逢ふこともがな

和泉式部

そのひとと最後に逢ったのは、一九七九年（昭和54）の晩秋であった。その人とは、詩人、岡本弥太（香美郡香我美町岸本）に、「魔性の女」と呼ばれた池本寿のことである。

「……弥太さんと最後にお会いしたのは、大きな桜の木があるところだったわ。行けばわかると思うけど、高知の北のほうの小高い丘のうえだつたわ。」

あれから五十年ちかく経っているから、あたりの様子はすっかり変わっているとおもっけど……

彼女の眼は、遠い日をつかすように、ほんのりとうるんでいた。

「そうだわ。この機会にあそこへ連れていってもらおうかしら。でも、だめだわ。あすは京都から実妹がこちらに来ることになっているから。」

じゃ、こんど高知へ来たなら、かならず御案内してください。きっと、きっと、ね。」

念を押して言ったのに、それっきり池本寿と再会することはなかった。

一九八一年（昭和56）の初冬から、とつぜん音信が絶えた。

（御病気とは聞いていないが、どうしてだろう）

と、いぶかしく思いながら、翌年と翌々年に年賀状を送ったが、いずれも「居所不明」の付箋が貼られて、手もとに返ってきた。

いつであったか、「わたし明治三十四年（一九〇一）生まれだから、弥太さんより二つ年下よ」と言ったことをおぼえている。してみると、わたしが最後に会ったときの彼女は七十八歳である。

しかし、どうみても六十代後半の年齢にしかみえなかった。均整のとれた体型。血色がよく、ふっくらとした顔だち。いくらか派手好みの身

拵えをしていたから、そういう印象を深くしたかもしれない。ところが、ずいぶん古いはなしになるが、一九三七年（昭和12）に、岡本弥太は教師仲間の中村伝喜（土佐梁山泊の創始者・昭和60年没）宛に次の手紙を送っている。

僕の年譜はのこさんがいいと思つている。自叙はある九州の雑誌（筆者注記・詩誌「詩道」第五・六号所収の「楚歌春秋」・高木秀吉編集）に出してあるから、それを保存してある。――略――その他、誰々と恋したことは是非書いてもらうがよいね。呵々。いのちをかけた恋人が一人あった。三人の恋人のうちで一人が女房になった。女房とは命がけの恋はしない。一人は独身で居り、一人は友人の女房になっている。――後略



1932年（昭和7）3月。赤岡尋常小学校卒業式の後で。後列左から四人目が岡本弥太。前列左から四人目、池本寿。

文中の「いのちをかけた恋人が一人あった」と「一人は独身で居り」というのは、まぎれもなく池本寿のことである。

彼女は、長岡郡大篠村篠原（南国市篠原）で一九〇一年（明治34・10・23）父、池本泉。母、優の五女に生まれ、名古屋市のミッシン・スクール・金城高等女学校英文科を卒業して、ある事情から地元へ帰り、高知市第一尋常小学校の西山庸平校長の推薦で、一九二三年（大正12）に三里小学校（高知市）の教員になり、三ヵ月後に岡豊村小学校（南国市）に転任して、一九二八年（昭和3）、赤岡町小学校（香美郡）に赴任した。

このとき、夜須村小学校（香美郡夜須町）から転任してきた岡本弥太に、池本寿は出会うことになる。

ところが、すでにふたりは面識があった。というのは、前年（一九二七）の秋。長岡郡大篠村小学校で、香美、長岡郡下教員団の授業参観があつて、寿の次妹、信――当時二十二歳・昭和十年死亡――が、夜須小学校教員として岡本弥太や同僚たちと会場に来ていた。

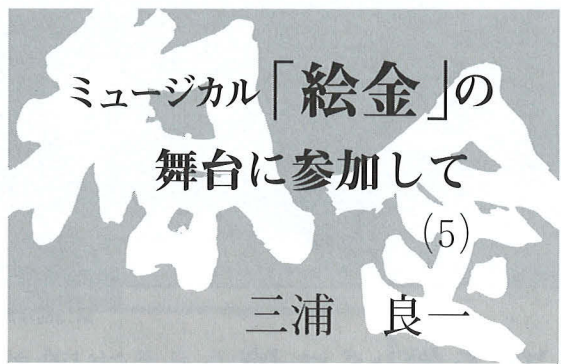
昼の休憩時間に校庭で、寿は妹から岡本弥太に紹介されたが、かるく会釈してさりげなく別れた――。

（ほりうちゆたか・雑文家）

◇公演まで後一ヵ月程の、ある日のダメ出しで「三浦の踊りは、オープニングのダンスには無理だ……」と行って役を降ろされると

いうことがありました。場所を変えての自主トレにも参加し、そんな日の帰宅時間は夜中、など人一倍の努力はしていたつもりですが、やはり、どうにもならない（素材）だったのでしよう。一瞬場内がシンとしました。数少ない出番の減ることは残念だし、例のない恥ずかしいことなので、さすがにシユンとなりましたが、これも年寄り役の一つかと受け止めました。

実はその頃、体の故障を訴える者が重なり、欠席者も多くなり、スタッフの苛々は募る一方という感じの時でした。遅れてきたヒロインが、皆の前で詫びを求められ、遂に落涙する、などという場面もありました。改めて、みんなの気持ちを引き締め、奮い立たせるには（仕上がりの悪い者は降ろされる）という事実を示すことが、何より効果的であったのです。誰にも真似の出来ない役、と思ったのですが、家内には大笑いされました。



似をするこたあないと思うが……

◇十月に入るとスケジュール表は、土、日もない連日のレッスンで埋まりました。待ち時間には別室で、各パートごと、また主役ク

ラスの特訓が並行して行われました。

私のダンスも、見るに見兼ねた若者による個人レッスンで少しは様になったようでした。体育館の裏通路へ呼び出して、一挙手一投足、自分のことのように指導してくれた石川君、「三浦さんには三浦さんの、年輪の味がある筈、自信を持って……」と励ましてくれた福井さん達、ありがとう、独居老人？には温かい声掛けが、何よりだったのです。

◇公演が近づくると大道具作りにも参加しました。なるべく経費をかけまいとする声に応じ、慣れない電気カンナも使いました。絵金画の襖や、大きなお月さんの出来映えはいかがだったでしょうか。

責任者の崎山さんを先頭に、衣裳係の方も大変だったようです。裁断、縫い上げと、体育館へもミシンを持ち込んでの作業がなされていきました。場面に合わせてのスタイルと四百着もの数をチェックされた山本先生も、たまるか！という状況でした。演出の厳しさは、容赦なく、衣裳の変更も要求されていたようでしたから……。それ

でも山本先生はいつもニコニコと、等身大で、その衣裳はみんなを温かく包んでくれました。

メイクの講習は、初体験で、特に男性陣は楽しんでいました。席が満席になったのです。やれば出来る、みんな頑張ったということでしょう。総経費二千四百万の内、その半分は入場料で賄えたと言いますが、これは平均一人三十枚の当初目標を大幅に超えた数字です。

「ノルマではないが……」「親戚知人に、招待券として配る様な安易な取り組みはしないように……」「舞台上に自信を持って売ろう。二千五百円は決して高くない」といったお話だったので……。それでも三ステージ、四千五百の席が満席になったのです。やれば出来る、みんな頑張ったということでしょう。総経費二千四百万の内、その半分は入場料で賄えたと言いますが、これは平均一人三十枚の当初目標を大幅に超えた数字です。

よさこい鳴子踊りに参加したり、街頭でチラシを配ったりのPR活動もありましたが、それぞれが、時には勇気を出して、良くやった結果だと思えます。

（つづく）

散歩の途中で



久万川の堤防は恰好の散歩道であり、自転車道である。照明（防犯灯）が設置されて、夜間の利用者も増えた。
その一角に「川を汚す人にも負けず 花を折る人にも負けず 犬糞を置き去りにする人には汚いから「ヤメロ」と言い 皆が楽しく散歩できる そんな堤防になりたい。久万川堤防」と横腹に表示された大きな犬（木製）がいた。

風俗

もののけ姫

優秀監督賞を受賞した「東京夜曲」（市川準監督）、ベネチア国際映画祭でグランプリ（金獅子賞）に輝いた「HANA-BI」（北野武監督）と、日本映画界が活況を呈している。

さらに、七月十二日に封切られた、宮崎駿監督による長編アニメーション映画の最

新作「もののけ姫」が、九月中旬までの観客動員数一千万人突破という、日本映画史上空前の大ヒット。
高知でも、〈高知東宝〉過去の最高記録が次々と塗り替えられたという。
平安時代（例えば「源氏物語」）には、「もののけ」という語が、しばしば用いられて、これを「物怪」と書くこともあった。
そして、この「物怪」は、後に「モック」と音読されるようになる。「一語の辞典気」(三音堂)

海外での大賞受賞は、必ずしも興行成績にはつながらない。
その点、「もののけ姫」が、沈滞気味であった日本映画界に、「物怪の幸い」をもたらししたのは、映画「ファン」の一人として、
(念)

市民フロアのご利用を

展示や会議に最適！

広さ・内装 96㎡壁面布クロス張り、スポーツライト完備
所在地 高知市はりまや町一―五―一
デンテック・ミナルビル5F
お申し込み (助)高知市文化振興事業団
73―4365

賛助会員募集中!!

会費 年額 2,000円
特典 ① 機関誌「文化高知」を年6回お手元にお届けします。
② 事業団発行の出版物の10%割引(一部例外あり)
③ 主催事業や刊行物の案内(マスコミ利用の場合あり)
〔※上記特典は申し込みいただいた日から1カ年有効〕
お申し込み ①郵便振替②現金書留③直接事業団へ…
いずれの方法でもけっこうです。

高知市民ミュージカル 脚本募集

ミュージカル「絵金」に続く第4弾、市民参加のミュージカルとして上演可能な、未発表のオリジナル脚本を募集。
内容(時代、題材等)は自由ですが、何らかの形で「高知」に関係しているもの。

最優秀作 1編 賞金50万円
佳作 1編 賞金10万円

応募締切 平成10年1月31日(土)
応募先 高知市文化振興事業団「市民ミュージカル脚本賞」係

*詳細は事業団まで。



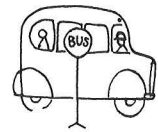
第13回写真コンテスト・高知を撮る入賞作品

高知を撮る

追手筋バス停 清岡義道

むかし、浦の内湾がまだ「生きていた頃、磯や洲はまさに海のお花畑のように色鮮やかな世界だった。洲では、ムラサキハナギンチャクがダリアの花びらのような長い触手をひろげ、それが住む砂粒でできた袋の中には、ホウキムシがちゃっかりと居候をきめていた。
やがて海が死に、ハナギンチャクは姿を消した。とうぜんのことながら、ホウキムシもいなくなった。
話は飛躍するが、一時、結核の研究者は、世の中から結核がなくなるというので、自分の失業のために仕事をしていたといわれた(幸か不幸か、この心配はだいぶ遠いのだ)。
このような「運命共同体」の関係は、この世界にも見られるようである。概念や実体がなくなれば、それを表すことも要らなくなる。
でも、ことばの場合は、しごとと生き残るものも多い。「清貧」のように、死んだはずの概念が、新しいよそおいで再登場していることもある。

相棒



風俗歳時記

しかし、いつの世でも、旅は旅、旅路の果てには、思わぬ悲劇が待っていることもある。長い歴史を背負ったことばには、それなりの敬意を表して旅を続けたいものである。
(路)

また、実体がなくなっても、嘘や諺などで生き残ることもある。建物もすっかり洋風が主流になり、敷居も少なくなりましたが、不義理をすると、「敷居が高い」とは言うが、「ポーチがくぐりにくい」とはまだ言わない。駕籠がなくなっても「相棒」は生きている。
ことばの場合は、意味が変わって混乱を招くこともある。古来、旅は厳しく、過酷な反面をもっていた。「旅は憂いもの辛いもの」であればこそ、人の情けが身にしみる場でもあった。そこで、「可愛い子には旅をさせよ」ということになるが、現代っ子は、この諺を、可愛い子には海外旅行をさせるべきだと解釈し、親は金をせびられる。

第8回 高知出版学術賞 推薦受付

「高知出版学術賞」は、当該年度における最も優れた学術出版物を顕彰することによって、学術研究の振興を図ることを目的とした賞です。該当図書について、皆様のご推薦をお待ちします。

【対象】

- ①高知県内に在住する者の学術的著述、または他県在住者で高知県に関する事項をテーマにした学術的著述。
- ②1997年中（奥付の日付による）に発行された単行本。
上記の各事項をみたすもので、高知出版学術賞審査委員会に推薦されたもの。

【推薦】

自薦・他薦を問いません。必要事項を記入した所定の推薦書に、該当図書2部を添え、審査委員会まで提出して下さい。なお、推薦書は請求下さればお送りします。

【受付期間】

平成9年12月10日(水)～平成10年1月31日(土)

【表彰】

3点以内とし、それぞれの著者または編者に賞状と賞金10万円を贈ります。

【推薦・お問い合わせ】

文化振興事業団内、高知出版学術賞審査委員会

第14回 高知市都市美デザイン賞 推薦募集

事業団では、街に個性と調和をもたらしている優れた建造物を広く知ってもらい、より美しいまちづくりを進めるよう「高知市都市美デザイン賞」を選出しています。

身のまわりで、街の美観や景観づくりに貢献している建物・公園・モニュメントなどを推薦してください。

【対象】高知市内にあって平成9年1月1日から平成9年12月31日までに完工した建築物・建造物

【推薦締切】平成10年1月31日(土)

(郵送の場合当日の消印有効)

【推薦】

どなたでも推薦できます。はがきに次の事項を記入のうえ、推薦してください。一人で何件でも推薦できますが、はがき1通に1件とします。

- ① 建築物・建造物の名称・所在地・完成時期
- ② 推薦の理由
- ③ 推薦者の住所・氏名・年齢・職業・電話番号

【送り先・お問い合わせ】

高知市文化振興事業団「都市美デザイン賞」係

第14回 写真コンテスト・高知を撮る 作品募集

【テーマ】高知を撮る

*高知に関する写真であれば撮影対象は問いません。

【応募】

*どなたでも、一人何点でも応募できます。

*254mm×365mm(ワイド四ツ切)以上の作品で、発泡スチロールパネル貼りとします。

*組写真は3枚までで、組写真であることを明記してください。

*その他詳しい要項は事業団までお問い合わせください。

【応募締切】平成10年1月31日(土)

【賞】 特選 2点(賞状と賞金5万円、副賞)
準特選 15点(賞状と賞金1万円、副賞)
入選 70点以内

【作品展】

平成10年3月市民フロアにて開催予定

【応募先】

*財高知市文化振興事業団
*高知県カメラ商組合加盟店または、
フジカラープリント取扱店